

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

夢や目標を持ち、それに向かって挑戦する児童の育成

・夢や目標に向かって、最後まであきらめずにやりぬく子 ・思いやりをもった優しい子 ・たくましく健康で強い心を持つ子

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む (1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.1	3

取組	成果	課題と改善策
(1) 学校目標とめざす子ども像の実現に向けて、研究推進と学力向上を中心に授業改善に取り組んだ。 学力向上の取り組み(日々の授業改善、授業の流れを明確化した「下小スタンダード」、朝学習、昼の基礎基本タイム、木チャレ、デイチャレ、家庭での自主学習、ラーニングプランの活用など) (2) 学校全体でインクルーシブ教育システムの構築とユニバーサルデザイン化に取り組んだ。 (4) 「尼っこ体力向上プラン」に基づいて体育の授業の充実やリズムジャンプの研修を行った。 (5) 各学年の発達段階や各教科の特性に応じて、積極的なICTの活用を進めた。	(1) 「子どもたちに着けたい資質能力」を明確にして、総合的な学習の時間を核として他教科を関連させた単元開発と授業づくりに取り組んだ。 (2) 特別支援学級担任と交流学級担任の連携が進んだ。すべての子が学びやすい授業づくり・環境づくりの整備が進んだ。 (4) 全国体力テスト結果では、一定の体力の維持と向上が見られた。 (5) 様々な学習場面でICTを活用し、「知識をつなげる力」「情報収集力」「協働力」「表現力」「発信力」を育てる取り組みを実施することができた。	(1) 各教科の基礎となる学力について児童間の開きが大きいため、個々の児童の課題に即した取り組みを進める必要がある。 (2) ユニバーサルデザイン化の取り組みと障害理解のためのカリキュラムの充実に取り組む。 (4) 指導補助員の事業を活用し、日々の指導の充実を図るとともに、リズムジャンプの実施を進める。 (5) さらに活用を進め、探究的な学びの実現をめざす。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3

取組	成果	課題と改善策
(2) 多様性の理解や人権意識を育むためにカリキュラムを作成し、授業を実施した。また、12月の世界人権週間に合わせて人権週間を行った。 (3) (5) アセス(学校環境適応感尺度)を導入し、毎学期実施した。毎月、いじめ対策委員会と生徒指導委員会を開催し、いじめや問題行動の未然防止・早期発見や、不登校の対応に努めた。不登校児童の保護との連絡を重ね、本人・保護者の支援を行った。	(2) 1月に(当初は参観授業を予定)全学年で人権に関わる学習を実施した。また、6年生はLGBTQについての特別授業を実施し、理解を深めた。 (3) (5) アセスを実施し、結果を分析することにより、教師が気づきにくい児童の困り感を知ることができるようになった。登校しにくい児童の保護者と密に連絡を取ることで、登校しにくい期間が長くなっている児童についても何らかの形で登校することができている。	(2) 来年度は多様性の理解と人権教育の充実を合わせて学年に応じた体系的なカリキュラムを検討、実施する。 (3) (5) アセスの読み取りと活用の研修を行い、効果的に活用することにより、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりをめざす。

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.2	3.5
取組	成果	課題と改善策	
(1)運営委員会を中心とした校内組織を機能させることにより、OJTでの資質向上と組織におけるミドルリーダーの育成に取り組み、チームとしての対応力の向上に取り組んだ。 (2)学校運営協議会を開催し、コミュニティ・スクールとしての取り組みを進めた。また、総合的な学習を中心にカリキュラムマネジメントを行い、地域の方々の協力を得たり市内から広くゲストティーチャーを招いたりして、開かれた教育課程の実現を進めた。また、学校だよりやHPを活用して、学校の様子を広く発信した。	(1)若手を中心とした職員集団ではあるが、教職員がそれぞれの役割を意識し、校務・学習指導両面においてスキルの向上を図ることができた。 (2)学校運営協議会を年3回開催した。また、地域楽興協働活動として日々の登校の見守りや図書ボランティア、校舎のペンキ塗りなどの活動をしていただいた。地域の方やゲストティーチャーによる学習を実施することで、探究的な学びを効果的に進めることができた。	(1)今後も、校内組織と授業改善を軸に教員の資質向上を進めていく。 (2)コロナ禍での制約はあるが、子どもたちの探究的な学びの実現のために、地域と連携した多様な取組を進めていく。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.9	3
取組	成果	課題と改善策	
(1)保護者や地域の方の協力を得て登校時の見守りを行った。また校外児童会と集団下校の機会を設け児童の安全意識の向上を図った。定期的に校内の安全点検を行い危険個所については校務員による修繕を行った。 (2)火災、集中豪雨、地震、津波を想定した避難訓練を実施し、危機対応力の向上に取り組んだ。津波を想定した避難訓練では、東日本大震災を取り上げたビデオを視聴し、自らの命を守る意識を高める取り組みを行った。	(1)保護者や地域の方の協力を得ることで児童の安全が確保できている。校舎の老朽化のため、修繕箇所は多いが、その都度対応することができている。 (2)繰り返し避難訓練を実施することで、児童の防災意識や対応力は着実に向上している。	(1)校内でのけがが目立つため、遊び方についての指導の徹底を図る。 (2)休み時間での災害発生を想定した訓練を行うなどして、児童の対応力を高める取り組みを行う。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.1	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
教育目標・めざす子ども像 「夢や希望を持ち、それに向かって挑戦する児童の育成」 ・夢や目標に向かって、最後まであきらめずにやりぬく子……がんばる ・思いやりをもったやさしい子なかよく……なかよく ・たくましく健康で強い心を持つ子……つよく (1)教育目標の達成に向け、学年目標、学級目標、研究テーマを設定し、教育活動全体で計画的で具体的な取組を行った。 コロナ禍ではあったが、方法や内容を工夫して最大限実現可能な取組を行った。 (2)「よりよい社会を創り出す子の育成」をめざし、「自ら学びを探究する児童の育成」のテーマで研究に取り組んだ。	各学年の学習活動、学校行事、研究等、教育活動全体で取り組み、行事や朝会などで形を変えつつも繰り返し伝えることにより、教職員も児童も「夢や希望に向かって挑戦する」「よりよい社会を創り出す子」を意識して取り組むことができた。	今後も、学校だけでなく家庭や地域の方々と連携して、教育目標とめざす子ども像の具現化に向けた取組を進めていく。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
		3.2	3.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
研究テーマ 「自ら学びを探究する児童の育成」 ～近松郷土学習や多教科にわたって学び広げる授業の創造～ (1)今年度は3年計画の2年次として、昨年度の研究の積み上げの上で、さらに子どもたちに育てたい資質能力を明確にし、カリキュラム作りと単元作りに取り組んだ。 (2)研究テーマの実現に向け、学校全体で授業研究に取り組み、校内研究授業、ブロック研究、一人一授業を実施した。また、本校の取り組みを深めるために、2月には公開研究発表会を行い、市教委や他校の先生方を招いて授業を公開し、アドバイスを受けた。	(1)「よりよい社会を創り出す子」の育成に向けて各学年で児童に育てたい資質能力を明確にして、魅力的な単元開発を行うことができた。 (2)校内研究を着実にを行うことにより、校内で教職員が学びあふ風土が醸成され、若手教員であっても積極的に授業改善に取り組もうとしている。公開研究授業を行い、市教委や他校の先生方といった外部からのアドバイスを受けることができた。	今年度の研究をもとに、さらに「探究的な学び」の実現に迫る取組を進めていく。	